

新なる所なり。沙河、旅順、渾河、對馬、海峽の連捷あるに及びて、首鼠の環視國民初めて、勝敗の數自から歸するあるを覺れるもの、如し。是に由て之を觀れば、邦土の大民庶の衆文武の教、歐洲の諸強に比すべき我、帝國を視ること如何に卑かりしやを推知するに足り、今日の勝敗に鑑て以て今後愈倍、彼の我を知らざるに顧慮せずして、我の彼を知らざる可らざるを認むるなり。而して是が方は即ち科學的智識中の最も世界的なる一部門地理學の思想の普及を措て最も先んずべきものを見ざるなり。

地學雜誌が地理學思想普及の機關として、之を鼓吹し、之を傳播せんと勉めて、收めたる所其期待せる所に對して果して満足すべき成績を得たるか。地學雜誌は未だ自ら詣らんと欲せるの境に造る能はず。東京地學協會々員、聽講者及び雜誌購讀者の増加は著しき事實なるも、其増加率を以て之を本邦萬般の進歩に比せんか。本邦に於ける地理學的智識に趣味を感じ、利益を認むる人の増加、寧ろ太だ遅々たるを嘆ぜざるを得ざるものあらん。時局は吾人を促すなり。地學雜誌たるもの自から小成に安んぜず、又た自ら安んずべきに非ずとせば、他日其第三百號を發刊するまで、若しくは第二十年を完くするまでに、時局の急轉、急進に伴ふに於て、深省せざる可らざるなり。(小川琢治謹識)

論 說

北米合衆國テキサス州米作視察談

男爵 松平正直

米國のテキサス州及博覽會のことは既に各所に於て御話をしましたから、重複になる様なことがあるかも知れませぬ、其邊は御容赦を願ひます。

昨年三月二十一日松平は當地を出發して渡米し、博覽會の事務に從事しましたテキサスの視察をなさうといふ觀念を起しましたまでの間に順序として、ちよつと博覽會の大要を一言添へて置きます。御承知の通り昨年日露の大問題の起る際が、丁度博覽會出品の時期でありましたこと故政府も此問題に就ては餘程心配をせられました、併し其出品の景況は非常に宜かつた、中には素より不充分な品物もありましたけれども、日本は獨逸と並び稱せられ、賞讃を博し、亞米利加人に非常な同情を得た、其原因は右の戦局に關らず日本の民族は實業に熱心なからと云ふことであります。而して私、彼地で非常に感喜しましたのは、實業の發達、日本の實力と云ふものは豫て自國で思ふたよりも値がある、獨逸と並び稱せられるのは虚名でなく、實力に於て耻ぢない、と云ふ程に發達したことを認められたと云ふことである。

扱右の博覽會へ参り而して、テキサスを視察しやうと云ふ觀念がどうして起つたかと云ひますと、